



1



2



3

1結果が記載された手紙をじっと見つめる境委員長
2発表後、声を上げる生徒は1人もいなかった
3さまざまな思いが込み上げ、こらえきれずに流れた涙をそっと拭う

歓喜の全校集会とはならなかった。だが、史上初の全国3連覇を目標に掲げ、全力で取り組んだ経験は今後の人生の大きな糧となるだろう。

11月22日、期末テスト終了後、臨時の全校集会が開かれた。
「今から体力づくりコンテストの結果を発表します」壇上に立つ体力づくり委員会委員長に全校生徒の視線が集まる。
先生から手渡された封筒を開け、確認。境委員長の表情が曇る。そこに書かれていた文字は文部科学大臣賞ではなかった。日本中学校体育連盟賞、第3位に相当する賞。
「結果は日本中学校体育連盟賞です。第3位でしたが、日本一に向けて一人一人全力でやれたことはよかったです」と、境委員長は動揺する気持ちを抑えながら、絞り出すように報告。唇をかみしめ、床をじっと見つめる者、溢れる涙を必死にこらえる者、静寂が体育館を包む。「全国4341校の第3位。これは誇りに思っている結果、胸を張っ

真の日本一に向けて

てほしい。3連覇は目的ではなく目標です。本来の目的はいろいろな活動を通して一人一人が成長すること。体力づくりは一つの足掛かりです。自信を持ってこれからの頑張りにおめでとう」と、先生が静かに話し掛ける。
全校集会終了後、3年生が残った。うなだれる仲間たちに向かい境委員長が「これまで自分たちは2年間、日本一の先輩たちを見て来ました。こういう結果になったけれども、これから先輩たちを超えられるように頑張っていきましょう」と、呼び掛ける。「はい！」顔を上げ、まっすぐな眼差しと力強い大きな声が返ってきた。
入学以来、初めて日本一を逃した3年生。一つの大きな目標に向かい共に切磋琢磨してきた仲間や後輩たちと過ごすことができる卒業までの数カ月、真の日本一に向けた本当の取り組みが今始まった。

Interview

心の成長を実感、充実した1年

「頑張るぞ！」という気持ちでスタートしましたが、いざやってみると大変でした。みんなには厳しい言葉を言ったこともありましたが、取り組みを進めて行くにつれ、いいものが作れるようになりました。審査日は今までで1番よかったと思います。第3位は悔しい結果でしたが、充実した1年間でした。来年は、早い時期から体力づくりの準備を行い、一つ一つの活動を頑張りたいです。



体力づくり委員会委員長 境直人 くん (3年生)

全員で協力することを目標に

結果が発表されたときの3年生の悔しそうな表情が印象に残っています。私たち自身も責任を感じました。
1・2年生は、元気なあいさつや大きな声が全体の場ではできていますが、個人になると弱いかと思います。声の大きさや機敏な移動、取り組みに対する意識の差などみんなでサポートしていくことができると思うので、基礎的なことを呼び掛けて個人の力を高めていきたいです。



生徒会 副会長 藤田萌衣 さん (2年生) ※来年度生徒会長



Document 11.8

普段通り、最高の姿を見せた審査日

「女子生徒の皆さん、こんな素晴らしい安定した声を出す男子生徒がパートナーとして居る学校で、心一つに合唱ができるのは幸せだと思いました。うらやましいです」
コンテストの最終現地訪問審査が行われた11月8日、審査員として訪れた(公財)日本中学校体育連盟の菊山直幸専務理事が、全校合唱を披露した生徒に感想を話した。
上位16校の各校として最終の現地審査を受けた十和田中。審査日はさぞ緊張感に包まれているかと思いきや、生徒たちは普段通りの学校生活気負った様子は見られない。朝のあいさつ運動に始まり、大きな声を出しながらのコーデイネーショントレーニング、男女のきれいなコーラスが体育館に響き渡る全校合唱、はつらつとした動きを見せる3年生の体育授業、そして、恒例のハッスルタイム。特別な何かをやる必要はない、普段通りに行く、ただそれだけ。今までの学校生活で積み重ねてきた力を十二分に発揮した生徒たち。「生徒たちは頑張って最高の姿を見せてくれました」いつもは厳しい表情を崩さない先生たちだが、この日に向けて全力で取り組んだ生徒たちを誇らしげに見つめていた。

十和田中学校を支える 縁の下の力持ち！

体力づくり委員会

体力づくりの取り組みを進める上で欠かせない組織、それが「体力づくり委員会」(境直人委員長)。各クラス男子2人、女子2人が委員となる総勢48人の委員会は、朝はもちろん昼休みも返上して体力づくり活動の準備、掲示物の作成など他の生徒が体力づくりに取り組みやすい環境作りを行う。体力づくりの場ではリーダーとして率先して行動し、みんなを引っ張って行く。時には同級生を叱咤しながら十和田中が目指す「体力づくり」を体現しようと日々活動を怠らない。



1昼休みも委員会活動。委員たちで掲示物を作成する
2活動終了後、委員らで反省会。最後に先生から指導を仰ぐ
3夏休み期間中、生徒会とともにJSS(ジュニアスポーツスクール)を開催。市内小学校に運動の楽しさを広める

good Support 一心同体 ~ 委員長を支えた副委員長たち ~



たかはしかずひろ 高橋和弘 くん
なかにしゆうすけ 中西祐輔 くん
ささきさそう 佐々木颯 くん
※いずれも3年生

常に境委員長のそばに居て良き相談相手として支えてきた副委員長の3人。「直人が全校生徒の前に出て頑張る分、体力づくりの場ではもう一人の委員長という気持ちで取り組んできました」と、話す。活動の場では、誰か前にも強力なリーダーシップを発揮し、みんなを引っ張ってきた。「仲間を大切にするのが十和田中。運動が苦手な人を含め、みんな一緒にやっこそ。来年は全員で頑張って日本一を目指してほしいです」自分たちが達成できなかった「思い」を後輩たちへ託す。



▲審査日に行うメニューについて話し合う境委員長(写真右)と佐々木副委員長(写真中央)

多くの「何か」を手にし、「思い」は後輩たちへ

「おはようございます」、「こんにちは」すれ違うたびに掛けられる元気なあいさつ。無駄話一つない生徒集会。体を反り、おなかの底から声を出して歌う校歌。規律正しい学校生活だが、重苦しい雰囲気は全くない。みんな仲が良く、楽しそうな笑顔で溢れ、生き生きとしている。体力づくりの取り組みは、運動が苦手な生徒には少しづついかも知れない。でも、下を向く、少し顔を上げてみよう、多くの仲間と一緒に頑張ろう、一緒に楽しもうと手を差し伸べている。それが十和田中学校。生徒たちは中学生という多感な時期に、この取り組みを通して、次のステップへ進む上で大きな「何か」を得ているだろう。それは体力だけではなく、積極的な行動力、仲間を思う気持ち、自立心、リーダーシップ。。「生徒たちの精神力(心)は強いですよ、鍛えられていますからね」先生たちは胸を張って話す。
十和田中学校が目指す体力づくりを基盤にした心づくり、人間づくりは一朝一夕にできることではない。だが、体力づくりに対する「思い」は3年生から1、2年生へ確実に受け継がれていくだろう。
●特集「受け継がれる思い」おわり